

ご 挨拶

旭川合唱連盟 理事長 水 野 雅 文

旭川合唱連盟が創立70周年を迎えましたことに、一言ご挨拶申し上げます。

残念ながら1月30日に挙行予定でありました記念式典は新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止となりましたが、ご多忙にもかかわらずご臨席を予定し、このHP掲載としてご祝辞をいただきました全日本合唱連盟北海道支部長 大木 秀一 様、旭川市教育委員会社会教育部長 高田 敏和 様をはじめ、ご来賓、加盟団体の皆様方におかれましては、常日頃より、本連盟に一方ならぬご厚情とご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

旭川合唱連盟は昭和25年の創立以来、先人の知恵と努力の積み重ねで発展してまいりました。60周年以降を振り返ってみても、多くの加盟団体がコンクール等で優秀な成績を収められたり、演奏会を開催された一方、旭川を会場として各部門の支部大会、令和元年5月には全日本合唱連盟主催の全国大会行事・コーラスワークショップが開催されました。ワークショップでは「作曲家からアプローチする合唱表現」をテーマに、3名の作曲家の先生方と2名の合唱指揮者の先生方による熱心で卓越したご指導の下、全国各地からのべ1300名に及ぶ合唱人が来旭・受講し、各方面から極めて高い評価をいただいたことは記憶に新しいところです。また、創立70周年の記念事業として記念誌の発刊、記念演奏として混声合唱曲「いいことがありますように」（作詩：難波真実 作曲：松下耕）の本連盟特設合唱団による初演と演奏収録を行うことができました。

いま、合唱を取り巻く環境は、社会の変化や感染症によるパンデミックなど、様々な面で困難と変革の時代を迎えています。このような状況のなかで創立70年という節目を迎えた旭川合唱連盟は、この道北地域を中心とした文化振興の一翼を担うものとして未来に向かい更に努力して参ります。

皆様方におかれましては、これからもご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしく御願ひ申し上げます。